

# 地域連携NEWS

東京都健康長寿医療センター  
地域連携部医療連携室

〒173-0015

東京都板橋区栄町35番2号

TEL 03(3964)1141(代表)

FAX 03(3964)1392(医療連携室)

Vol.30 2012.1 発行

## 新年のご挨拶

東京都健康長寿医療センター長  
井藤 英喜



新年あけましておめでとうございます。当センターの運営に、日頃より多大のご理解とご支援を頂き、まことにありがとうございます。

東京都健康長寿医療センターは、明治5年の開設から127年の歴史を持つ東京都養育院を母体として昭和47年に創設された、養育院付属病院（後の東京都老人医療センター）及び東京都老人総合研究所が統合され、平成21年4月に設立された地方独立行政法人です。

当センターは、①患者様本位の質の高い医療サービスの提供、②ご高齢の方への専門的医療と生活の質（QOL）を重視した全人的・包括的医療の提供、③地域の医療機関や介護保険施設・福祉施設との連携による継続性のある一貫した医療の提供、④診療科や部門・職種の枠にとらわれない医療の実践、⑤高齢者医療を担う人材の育成及びセンター研究所との連携による研究の推進という5つの理念に基づいて運営しております。

ご高齢の方の医療に関しては、ほぼどのようなご要望にでも応えることが可能な体制となっています。なかでも、ご高齢の方に多い心血管病、がんおよび認知症を、当センターの重点医療と位置づけ、充実した診療を行っております。また、ご高齢の方は、急病にかかられる方も多いことから、救急医療にも力をいれております。

また、今後は、高齢期の健康維持は中年期からのからだのケアが重要ということから、ご高齢の方ばかりでなく、40～50歳代の方の診療も行っていこうと考えています。

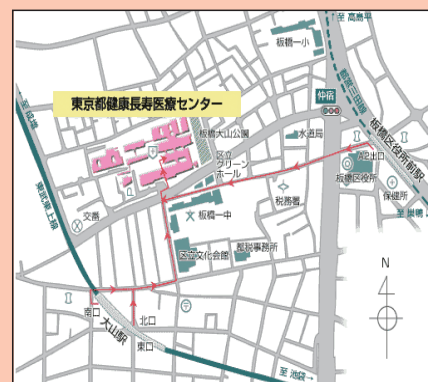
現在当センターでは、平成25年3月の竣工を目指し新病院、研究所の建設を行っています。新病院は、最近の病院建築に関する進歩をとりいれ、患者様の療養環境として素晴らしいものになるように設計されております。

日進月歩の医学・医療の進歩を取り入れた医療、かつ安心、安全な医療を提供しようとスタッフ一同、日々真摯な努力を積み重ねています。是非より多くの方が当センターをご利用くださることをお願い申し上げます。

本年が皆様にとりまして、お幸せないい年になりますことをお祈り申し上げ挨拶とさせていただきます。



地方独立行政法人  
東京都健康長寿医療センター  
TOKYO METROPOLITAN GERIATRIC HOSPITAL



アクセス

- 東武東上線「大山」駅下車、南口・北口より徒歩5分
- 都営地下鉄三田線「板橋区役所前」駅下車A2出口より徒歩10分（徒歩80m/分）  
また、お車でお越しの方に駐車場（駐車料無料）も御用意しておりますが駐車台数に限りがあるため、あらかじめご承知おきください。

# 退院おめでとうございます！

## 板橋区内最高齢 109歳の患者様です

～かかりつけ連携医 島田先生に感謝！感謝！～

木村 竹様は現在、109歳と板橋区内最高齢でいらっしゃいます。区内にはほかにも109歳の方がいらっしゃるようですが、在宅でお越しの方は木村様だけとのこと。また、日頃介護されているご長女様はなんと86歳！とてもお元気でいらっしゃいます。

当センターとは副院長の桑島が若かりし頃に木村様をご診察して以来、26年のお付き合いとなります。

普段は板橋区役所前診療所の島田 潔先生とつくしんぼ大山診療所の訪問看護スタッフの皆様が連携し合い、木村様の在宅でのご生活を支援されています。

今回、木村様は肺炎で当センターに緊急入院されましたが、順調に回復され、このたび無事退院の運びとなりました。

木村様が今後もお元気で過ごされることをセンター職員一同、心よりお祈り申し上げるとともに、地域の先生方との連携をより一層深めていきたいと気持ちを新たにしております。



## 新センター建設情報

### センター新築工事 進捗報告

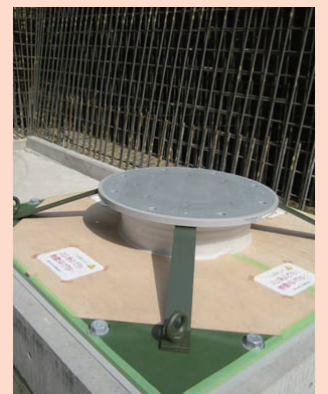
平成23年2月下旬にスタートした新築工事は10か月を経過し、杭工事、掘削工事を終え、地下2階部分の工事へと進んで参りました。この間、発生土を搬出する大型のダンプカーや基礎工事に要するミキサー車の往来により近隣のみならずには多大なるご迷惑をおかけしたことと思います。この場を借りてお詫び申し上げます。

これまでは地下の作業ということで、完成後もけっして見ることのできない、しかしながら建物にとって大変重要な作業工程を経て参りましたが、そのうちのいくつかをご紹介します。

当センター新施設は免震構造を採用しており、地下免震フロアに4種類の免震装置を計228個設置することによって、地震による揺れが直接建物に伝わらないようにしています。災害時においても不断の医療サービスを提供することができるよう、施設の機能維持を目指しています。

また、省エネルギー・環境対策としては、地中熱を利用することによって空調負荷の低減を図ることとしました。外気を取り入れる際に予冷・予熱を行い、電力消費量の削減とヒートアイランド抑制に貢献していきます。

新病院建設中



装着された免震装置